

熱い夏、大健闘の夏

台風 10 号の影響で雨の日が続いています。今年の夏は本当に厳しい暑さの日が多く、残暑も厳しく、まだまだ猛暑が続くなかですが、いよいよ今日から 2 学期がスタートします。夏休み前半には、パリオリンピックが行われ、日本の選手の活躍に一喜一憂し、たくさんの感動をもらいました。私は、そのオリンピックに負けないくらいたくさんの感動的な場面を共有させてもらいました。県吹奏楽コンクールで難曲に挑み、金賞を勝ち取った吹奏楽部の頑張り、県総体では、関東大会出場を決めた男子バレーの選手たちの粘り強い戦い、酷暑のなか頑張り通した陸上部の選手たち、女子は関東出場、男子はあと一步で関東大会へ届かなかったが大健闘だった剣道部・・・、私は、すべての競技に応援に行くことができなかったのですが、みなさんはたくさんの感動と共に素晴らしい成果をあげてくれました。また、柔道部の伊藤勇武さん、体操部の小林大心さんの全国大会への出場、そして、県総体優勝、関東大会3位で山梨県勢としては史上初の全国大会出場を果たした女子バスケの活躍は顕著でした。新潟県長岡市で開催された全国大会へ私も応援に行かせていただきましたが、全国の強豪相手に平均身長 155.3cm で挑み、残念ながら決勝トーナメントには進むことができませんでしたが、3人の3年生を中心に、敷島中のバスケを展開、小さくても全国で戦えることを証明してくれました。



このように、心が動く体験が、みなさん一人一人を成長させ、そして学校を成長させてくれます。2学期は大きな行事があり、来月半ばには年輪祭も予定されています。また合唱祭や新人大会、2年生の職場体験などは貴重な学びの場となり、成長できるチャンスになります。時にはうまくいかないこともあるでしょう。しかし、いろんなことを乗り越えた先には感動があることでしょう。格別の暑さの夏を乗り越え、この2学期を「実りの秋」「成長の秋」にしていきたいと思います。

<始業式 式辞から>

「日日是好日」という禅語は、過去をむやみに悔い、未来に必要以上の期待を持ち込まず、現在（いま）を精一杯生きること努める大切さを説いたものです。たとえば、今日はいいい日だなとか、嫌な一日だったなと感じることがありますが、それは自分が勝手に作り上げた感じ方ではなく、本当はどの日も最高のいい日ばかりであるということを私たちに示しているのです。しかし、その一日がいい日になるか、悪い日になるかは、私たちの心が次第なのです。いい一日を過ごしたいと思って和やかな笑顔と穏やかな態度で過ごせばいい一日になります。逆に、今日は嫌な日だと思って過ごせば、どんよりとした表情と後ろ向きの言葉ばかり発してしまい、それが周囲にも伝わって、嫌な雰囲気漂うことでしょう。善き結果には善き原因が、悪しき結果を生み出すのは悪しき原因があるからで、これが仏教における「因果（いんが）の道理（どうり）」という大切な考え方です。この機会に是非、知っておきたいものです。どんな日もご縁に恵まれた日であることを自覚して、毎日を大切に生きていくことが大事だと「日日是好日」は説いています。そのことを心に留めて、一日一日を大切に、精一杯生きていきたいものです。みなさんには、新学期を充実したものとしてほしいと思います。そして「優しい自分」、「あきらめない自分」、「強い自分」、「美しい自分（何事にも一生懸命取り組む）」を出していきたいと思います。

<生徒代表の発表から>

☆この夏休みでほとんどの部活動で新体制となりました。まるでオリンピックの聖火のように熱く燃える思いと共に引き継がれました。その思いを次の世代に渡すまで燃やし続けられるように意志を強く活動に励んでいきます。今年も楽しみにしている年輪祭。先輩方とつくる最後の年輪祭。赤学年の燃えさかる火をその背中で見せて

くださるその姿を目に焼き付け、また後輩の手本となれるように目で見、頭で考え、自分たちで真剣に取り組めるようにします。(2年5組 帯金海音さん)

☆私にとって一番印象に残っていることは部活動です。私はアーチェリー部に所属しています。3年生になり60mの練習に力を入れてきました。7月に行われた大会では自己ベストを更新し優勝することができました。この3年間で得た自分の目標に向かって精一杯努力すること大切さを日常生活にも活かしていきたいと思います。そして学習面では、これからの学習でその結果はまだまだ変わります。受験は人生の中で大きな分岐点になります。自分自身で選び、学んでいく道を後々後悔しないために、一日一日を大切にしていきたいと思います。(3年2組 櫻井奏心さん)

☆2学期は一番長い学期です。長いですが全力でやり抜きたいです。年輪祭の体育部門では学年、クラスで団結し励まし合いながら乗り越えていきたいです。文化部門では学年やクラスで一つになってよい合唱にしていきたいです。そして学校生活一日一日を大切にするという気合い魂を1学年全員で大切にしていき、仲間とさらに成長できる2学期にしていきたいと思います。(1年2組 齋藤豪さん)

☆2学期はじめに年輪祭があります。今のメンバーで挑むことができるのは今年1回だけです。本気で取り組み、悔いの残らないように頑張りましょう。今年の年輪祭のテーマは「光」です。このテーマには、全校みんなで協力し、光り輝く年輪祭をつくり、その光をもとに一人一人が自分の花を咲かせてほしいという願いがあります。生徒会テーマ「五百花繚乱」のように、全校生徒全員が輝き、咲き誇れるような年輪祭をつくりあげましょう。(3年4組 白鳥美鈴さん)

平和への願い・・・私たちにできること

過日私たちは令和6度目の「8・15」を迎えました。戦争体験者は高齢化が進み、若者の意識も低くなる傾向は否めませんが、世界では現在でも戦争が続いています。戦争の悲劇を二度と繰り返さないために、戦争の記憶を風化させないために、時代が変わっても、歴史を振り返り、平和の大切さを考える機会としたいと思っています。被爆79年となる広島「原爆の日」の平和記念式典で、広島市の小学生が「平和への誓い」を読み上げました。

平和への誓い 広島・原爆の日

目を閉じて想像してください。緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。「ドーン!」という鼓膜が破れるほどの大きな音。立ち昇る黒味がかった朱色の雲。人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。

原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。

言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。

今もなお、世界では戦争が続いています。

79年前と同じように、生きたくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。

本当にこのままでよいのでしょうか。願うだけでは、平和はおとずれません。

色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。一人一人が相手の話をよく聞くこと。

「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。

私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。

そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合しましょう。

世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。



令和6年(2024年)8月6日

こども代表 広島市立祇園小学校 6年 加藤 晶 ・ 広島市立八幡東小学校 6年 石丸 優斗